

東京大学史料編纂所×元興寺文化財研究所×大淀町連携シンポジウム

こ も ん じ ょ

ち ゅ う せ い

よ し の

古文書がひらく中世の吉野

—東京大学史料編纂所 2023 年度一般共同研究「吉野修験関係史料の調査」成果報告会—

連携シンポジウム関連企画展

「読んでみよう！吉野の古文書」

会期：3月6日(水)～4月8日(月)

9:00～17:00 入場無料(火曜・祝休館)

場所：大淀町文化会館(下記参照)



吉野山・櫻本坊所蔵『大般若経』(一部)



古文書調査の様子

日 時：2024年 **3月 10日** (日) 13:00～16:30 (12:30 開場)

場 所：大淀町文化会館小ホール(先着 90 名) ※入場無料(申込不要)

問合せ：大淀町文化会館 (〒638-0812 奈良県吉野郡大淀町桧垣本 2090 番地)

0747-54-2110(TEL)／0747-54-2112(FAX)／bunkashinkou@town.oyodo.lg.jp(E-mail)

東京大学史料編纂所・公益財団法人元興寺文化財研究所・大淀町文化会館 共催
櫻本坊・大淀古文書文化研究会 協力

東京大学史料編纂所×元興寺文化財研究所×大淀町連携シンポジウム「古文書がひらく中世の吉野」

地域の歴史を物語る貴重な遺産の一つが古文書です。吉野の各地域にも、先人たちが残した数多くの古文書があります。その大半は、江戸時代から明治・大正・昭和時代までの近世・近代文書ですが、地道な調査研究を続けることによって、それよりも古い中世文書(鎌倉・室町時代)や、さらに古い平安時代の文書がみつかることもあります。また地域に残されたお経も歴史資料として注目されるようになっていきます。

現在、吉野町および大淀町で行われている、東京大学史料編纂所と関連機関による共同研究「プリンストン大学図書館所蔵吉野山修験関係史料の保存・利用のための研究」(2018・2019 年度)・「吉野修験関係史料の調査」(2022・2023 年度)では、これまで知られていなかった新たな古文書・歴史資料の存在が明らかとなりました。このたびのシンポジウムでは、中世の吉野を古文書から読み解くとともに、その遺産としての保存・活用についてもあわせて考えてみたいと思います。

内容(予定):

○司会進行:松田 度(まつだ・わたる)(大淀町教育委員会 学芸員)

○趣旨説明:服部 光真(はっとり・みつまさ)(元興寺文化財研究所 主任研究員) 13:00~13:10

○開催に寄せて(生中継):トーマス・コンラン(プリンストン大学 教授) 13:10~13:15

○第1部:基調講演 13:15~14:00

「山伏と中世社会—アメリカに渡った吉野山の史料から—」

榎原 雅治(えばら・まさはる)(東京大学名誉教授)

○休憩 (14:00~14:10)

○第2部:調査研究報告 14:10~15:10

・報告1 「吉野地域史料としての櫻本坊所蔵『大般若経』」

服部 光真

・報告2 「【前坊家文書】にみる戦国時代の和」

堀川 康史(ほりかわ・やすふみ)(東京大学史料編纂所 准教授)

○休憩 (15:10~15:20)

○第3部:パネルディスカッション「古文書がひらく中世の吉野」 15:20~16:30

・問題提起1 「金峯山と貴族社会」

海上 貴彦(うなかみ・たかひこ)(東京大学史料編纂所 助教)

・問題提起2 「金峯山寺一切経と櫻本坊所蔵『大般若経』」

三宅 徹誠(みやけ・てつじょう)(元興寺文化財研究所 特別研究員)

・問題提起3 「豊臣家と吉野・高野・熊野」

坂本 亮太(さかもと・りょうた)(和歌山県立博物館 学芸課長)

・ディスカッション

コーディネーター:松田・服部 パネリスト:榎原・堀川・海上・三宅・坂本

